



芸術を軸に活用した学校

中之条町 企画政策課
中之条ビエンナーレ実行委員会事務局
伊参スタジオ映画祭実行委員会事務局

■中之条ビエンナーレ

中之条ビエンナーレは、里山の持つ文化や歴史、そして自然などの資源を活かした現代アートの祭典です。20代から40代の若手アーティストを中心に、普段見慣れた商店街や古くから続く情緒ある温泉街、時が止まったままの使われなくなった学校や古民家が、絵画や彫刻、インスタレーションといった現代アートの力によって、全く違った景色に変化していきます。

来場者が2015年には延べ47万人と過去最高になり、このアートイベントが一定の理解を得られてきていると実感しています。開催期間中は廃校を中之条ビエンナーレの拠点並びに会場として利用し、学校の雰囲気を持ちつつ普段とは違い、作品鑑賞のほかオフィシャルショップ・マルシェが楽しめる会場になることで、20代から40代半ばを中心とした来場者による開放的な空間が現れます。

このように現代アートを中心とした廃校活用によるまちづくりは、地域の活性化、経済波及、高齢者福祉、定住促進など様々な分野へ効果を広げています。



■伊参スタジオ

旧中之条町立第四中学校は平成2年に廃校となりましたが、平成7年に群馬県人口200万人到達記念として製作された、小栗康平監督の映画「眠る男」の撮影拠点として使われたことから、同年10月より「伊参スタジオ公園」として一般開放されています。平成10年には撮影スタッフが宿泊できるように、また、映画関係の資料を展示できるよう、木造校舎と体育館を改装し、校舎の北側には風呂・トイレ・自炊棟を新築しました。冬期期間を除き管理人がおり、当時のままに保たれています。

一般開放してからは、年間約1万人もの来場者がいるほか、泊まり込みで映画や写真の撮影をされる方も多くいます。

現在は、平成13年から毎年開催している「伊参スタジオ映画祭」というイベントの会場となっており、毎年多くの来場者がいます。その映画祭は毎年11月に開催し、群馬に縁のある作品を中心に上映しています。その他、全国から台本を募集し、大賞受賞者は1年かけてその作品を中之条町で映画化、翌年の映画祭で公開する「シナリオ大賞」にも多くの応募があります。

このように廃校を活用することによって、交流人口の増加につながっています。

